2025年度

ＪＡバンクの地域密着型金融の取組状況について

2026年10月

目次

Ⅰ．農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

１．農業融資商品の適切な提供・開発 …… Ｐ５

２．担い手のニーズに応えるための取組み …… Ｐ９

Ⅱ．担い手の経営のライフスタイルに応じた支援

１．次世代農業者の育成支援 …… Ｐ11

２．食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援 …… Ｐ14

３．農業法人とのネットワーク拡大 …… Ｐ15

４．災害等の被害を受けた方への支援 …… Ｐ16

５．経営不振農家の経営改善支援 …… Ｐ17

６．事業性評価を通じた農業者の経営課題の把握・課題解決ソリューションの提供 …… Ｐ18

目次

Ⅲ.経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供

１．資本供与の取組み（ファンドの活用） …… P 21

２．負債整理資金による経営支援 …… P 23

３．動産担保融資の活用 …… P 24

Ⅳ.農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

１．食・農への理解促進 …… P 26

２．地域活性化への取組み …… P 27

農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

1 農業融資商品の適切な提供・開発

ＪＡバンクは、農業者の営農類型や多様なニーズを踏まえたうえで、必要となる運転資金や設備資金、災害資金等を適切に提供するとともに、農業情勢の変化に適応した融資商品の開発を通じて、農業者の農業経営を金融面からサポートしています。

2026年3月末時点のＪＡバンクの農業関係資金残高(注1)は 1兆9,977億円（うち農業経営向け貸付金残高1兆2,385億円）、株式会社日本政策金融公庫等の受託貸付金(注2)残高は6,168億円を取り扱っています。

注1：農業関係資金残高とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関係する事業に必要な資金等が該当します。
注2：ＪＡバンクが農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

［営農類型別残高］

単位：億円

営農類型	2025年3月末	2026年3月末
農業	12,325	12,385
穀作	2,411	2,444
野菜・園芸	1,701	1,736
果樹・樹園農業	403	402
工芸作物	192	203
養豚・肉牛・酪農	2,988	2,969
養鶏・鶏卵	234	230
養蚕	0.3	0.3
その他農業（注1）	4,396	4,401
農業関連団体等（注2）	7,936	7,593
合　計	**20,261**	**19,977**

注1：「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれます。
注2：「農業関連団体等」には、ＪＡや全農（経済連）とその子会社等が含まれています。農林中央金庫の貸出金残高からは、信用事業を行う系統団体に対する日銀成長基盤強化支援資金等の制度資金の原資資金を除いております。

【資金種類別残高】

単位：億円

種　類	2025年3月末	2026年3月末
プロパー農業資金（注1）	16,523	16,271
農業制度資金（注2）	3,738	3,706
農業近代化資金	2,074	2,166
その他制度資金（注3）	1,664	1,540
合　計	**20,261**	**19,977**

【農業資金の受託貸付金残高】

単位：億円

種　類	2025年3月末	2026年3月末
日本政策金融公庫資金	6,254	6,166
その他	2	2
合　計	**6,256**	**6,168**

資金種類別残高｜
注1：プロパー農業資金とは、ＪＡバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。なお、プロパー農業資金については、農林中央金庫の貸出金残高から信用事業を行う系統団体に対する日銀成長基盤強化支援資金等の制度資金の原資資金を除いております。
注2：農業制度資金は、①地域公共団体・日本政策金融公庫が直接的または間接的に融資するもののうち転貸資金、②地方公共団体が利子補給等を行うことでＪＡバンクが低利で融資するものを対象としています。
注3：その他制度資金には、農業経営改善促進資金（スーパーＳ資金）や農業経営負担軽減資金などが該当します。
農業資金の受託貸付金残高｜
ＪＡバンクでは、主にはＪＡを窓口として、日本政策金融公庫資金および沖縄政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。上記表において日本政策金融公庫残高には沖縄政策金融公庫資金残高を含めて表示しております。

適切な農業融資提案による取引事例

実施主体

ＪＡバンク　埼玉

担い手の資金ニーズにお応えします！
ＪＡさいたまの農業融資

JAバンク 埼玉

JAさいたま

生産者の経営を支えて、様々な資金ニーズに対応すべくＪＡさいたまは生産者に寄り添って農業融資をご提案しております。

農　業　融　資

次男の就農と、さらなる品質向上への決意

さいたま市見沼区で大玉トマト「麗旬」を栽培する長島一博さんは、品質へのこだわりから品種を絞り、指名買いされるほどの人気を築いてきました。そこに昨年、次男の弘樹さんが　24歳で親元就農。「自分たちが作ったトマトを選んでもらえる喜び」を実感する弘樹さんの加入により、家族経営の体制がさらに強化されました。弘樹さんは、今後の厳しい栽培環境に対応するため、将来を見据えた規模拡大を決意しました。

さいたま農業協同組合　長島農園　**長島　一博さま、弘樹さま**

事業内容

米の栽培や、大玉トマトの「麗旬」をメインに約10種類の農産物を生産・販売

主な出荷先：JAさいたま直売所（木崎ぐるめ米ランド、三室ぐるめ米ランド、安行農産物直売所）、近隣スーパー 等

長島農園で直売も行っている。

ハウス新設に伴う設備資金の確保と、効率化の推進

長島さん親子は、ハウスを新設して栽培面積を拡大し、作業の効率化を進める計画を立てました。しかし、近年の気温変動や乾燥など栽培環境の厳しさが増す中、最新の環境制御技術を含むハウス建設には多額の初期投資が必要となり、安定した返済計画の策定が課題となっていました。

そこでJAは、弘樹さんの就農状況を踏まえ、「青年等就農資金」や「農業近代化資金」の活用を提案。経営シミュレーションを共に行い、将来の収益増を見込んだ無理のない融資プランを構築しました。

次世代へつなぐ、環境に対応した強い農業へ

弘樹さんの声：「JAさんの力強いサポートのおかげで、資金面に目処が立ち、ハウス新設という大きな一歩を踏み出す決意ができました。父が守ってきた『麗旬』の味や品質をしっかりと受け継ぎつつ、これから新しく建てるハウスで最新の栽培技術に意欲的に挑戦し、より多くのお客さんに喜んでもらえるトマトを届けていきたいです。」

一博さんも、弘樹さんが新しい感覚で経営を支えてくれることに大きな期待を寄せています。

JAは今後も、技術指導と金融の両面から長島さんの安定経営をサポートし続けます。

支店長代理　　佐藤　俊幸

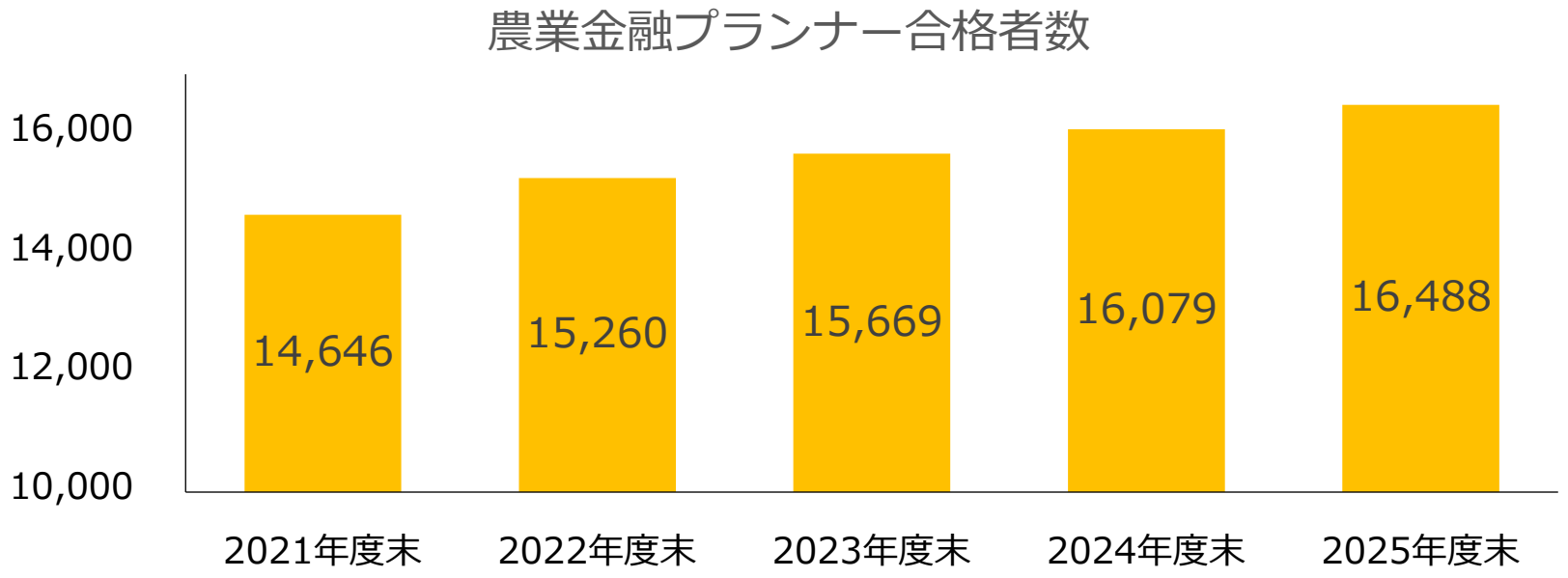
今回、弘樹さんの就農という大切な節目に立ち会えたことを大変嬉しく思います。「お客さんに選んでもらえることが喜び」という弘樹さんの真っ直ぐな言葉に、私自身も身が引き締まる思いでした。一博さんの豊富な経験と、弘樹さんの新しい挑戦を「農業融資」という形で繋ぐことができ、地域農業の未来を支えるやりがいを改めて感じました。これからも、農家の方々の「期待」に応えられる担当者として、全力で伴走していきたいと考えています。

2 担い手のニーズに応えるための取組み

豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を2025年度末時点で全国490ＪＡに合計1,547名配置しております。

ＪＡ系統独自の農業融資資格制度である「ＪＡバンク農業金融プランナー」を導入しており、合格者は2025年度末時点で全国16,488名誕生しています。農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多用化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

各都道府県域では、ＪＡのサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築しており、これらの機能の拡充、強化に努めています。



担い手の経営のライフスタイルに応じた支援

1 次世代農業者の育成支援

ＪＡバンクでは、新規就農者の経営安定化に向けたサポートを行うため、青年等就農資金等を取り扱っております。

【2025年度　新規就農者をサポートする資金の実績】

単位：件、百万円

資金名	2025年度		2026年3月末残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金（制度資金）	2,038	12,896	71,161
就農支援資金（制度資金）	0	0	392
ＪＡ新規就農応援資金	164	511	1,519
その他（ＪＡプロパー資金等）	370	3,008	7,769
合　計	2,572	16,415	80,841

次世代農業者の育成支援事例

実施県域

ＪＡバンク　栃木

JAしおのやが取組む『新規就農者育成研修事業』

JAバンク 栃木

JAしおのや

JAしおのやでは「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指し、新規就農希望者に向けて支援を行っています。

新規就農者への支援

新規就農者を支える3つのサポート

充実した農業実務

研修期間中の処遇

独立後の就農支援

栽培技術などの営農指導のみならず、
経営指導、使いやすい資金提供など、
ＪＡしおのやの様々な部署が専門機関と連携を持って、
研修開始から就農後もサポートします。

JAしおのやの新規就農者育成研修事業とは？

ＪＡしおのやでは、将来、農業で自立を目指す農業後継者や新規就農希望者等を受入れて、農業技術や経営手法等について研修する「新規就農者育成研修事業」を実施しています。

研修期間中は実務先となる農業生産法人（株）グリーンさくらでの実習を通じて、就農に必要な技能やノウハウを習得できます。（株）グリーンさくらは高齢化による離農や遊休農地が増えている状況を打開すべく、地域農業の実現を目指して平成24年に設立されました。

JAしおのやの本店北側には、1.6haを超える（株）グリーンさくらの農場があり、就農に必要な技能やノウハウは実習を通じて習得できます。また、独立後も、地域およびJA生産部会等の一員として、地域に溶け込むための支援、技術・資金・経営管理サポート等を総合的にサポートしています。

現在（2026年2月末時点）は、5人の研修生が在籍しており、新規就農を目指して学んでおります。

➢ 研修生が制度資金を学ぶ様子（2025.10.23）
JAしおのや、（株）日本政策金融公庫、農林中央金庫で新規就農者向けに公庫資金座学講習会を開催しました。研修生は資金の融資実行までの流れや収支計画の例を見て学び、就農後の参考にすることができました。

㈱グリーンさくら卒業生の主な就農状況（2026年2月末時点）

イチゴ（20名）、アスパラガス（8名）、直売所向け多品目野菜（9名）、
水稲他（8名）、ニラ（2名）、ナス（5名）、リンドウ（2名）

次世代農業者の
育成支援事例

実施県域

ＪＡバンク　栃木

新規就農2年目
福田さんが取り組む春菊栽培

JAバンク 栃木

JAしおのや

JAしおのや管内で新規就農から2年目の福田さまが春菊とナスの栽培を行っています。
生産者の「生の声」をお届けします。

生　産　者　の　声

福田　聡 さま

- 新規就農2年目
- 就農に当たっては、ＪＡしおのやの新規就農者育成事業を利用
- JAしおのや管内でナス・春菊を栽培
- JAしおのやの春菊部会所属
- 栽培したものは全量JAしおのやを通じて出荷。『自分の作った作物を食べて、甘いね美味しいね』という声を聞くとやりがいを感じる

新規就農から2年目

JAしおのや管内で新規就農2年目、またJAしおのやの春菊部会にも所属する福田聡さんの声をお届けします。

福田さんは元々は会社員でしたが、会社に勤める中でもっと自分で考えて責任をもって仕事をしたいと考え、2年前に就農されました。元々は祖父が農家をやっていたため、農業は身近な存在でもあったそうです。新規就農に当たっては、JAしおのやの新規就農者育成研修事業を受講し、1年間勉強をする中で、農業をやりたいという自分の思いを確信して、新規就農されました。

自身で戦略を考え、春菊・ナスを栽培

現在は、20アールの圃場に11棟のハウスを建てて、春から夏にかけてはナス、秋から冬にかけては春菊を栽培しています。春菊栽培に当たっては、最初は本当に根を張るのかとても不安だったそうです。

美味しい春菊の栽培には水分量の調整が最も重要。圃場は水田からの転作であったため、水分量の影響で1年目にやっていたことが2年目には同じことを行ってもうまくいかないこともあり、毎年考えて対応しなければならないことに苦労されたそうです。毎日、圃場で作物の状態を確認して、水の量の調整・ハウス内の温度調整などをこまめに行い対策したことで、去年は1日で最大42ケースを出荷し、収量向上にもつなげることができました。

JAしおのやとの関わり

福田さんの春菊は全量がJAに出荷されています。
また、JAしおのやの春菊部会にも所属されています。部会の中では、自分と同じように農業に取り組む仲間を見つけ、コミュニティ作りの場になっていること、また部会の中で市況の予測などの情報を仕入れて、戦略的に経営を行っています。

福田さんは今後も春菊とナスを育て、新鮮な野菜を消費者に届けることを目標に日々農業に取り組まれています。

↑福田さんが育てた春菊
- 美味しい春菊の見分け方は葉がパリッとしていて、みずみずしく厚みがあるもの。

2 食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援

ＪＡバンクは、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援や商品企画力の向上支援など、農商工連携に取り組んでおり、「農林水産業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

【2025年度　商談会等開催・出展状況】

ＪＡバンクでは、18県域で計32回の商談会等を開催・参加いたしました。（共催・事務局参加含む）

例１
「食の大商談会　インフォメーションバザール in Tokyo 2025」
（2025年８月　ＪＡグループ北海道としてＪＡ出展および販路拡大支援）

例２
「山梨ワインの個別輸出商談会」
（2025年９月　農林中央金庫と山梨県信連による共催）

例３
「農と食の展示商談会　埼玉県農商工連携フェア」
（2025年12月　ＪＡグループさいたまとして出展）

3 農業法人とのネットワーク拡大

ＪＡバンクでは、農業法人とのネットワーク拡大、関係強化に取り組んでいます。

【農業法人協会との連携】

2014年2月に、農林中央金庫は公益社団法人日本農業法人協会(2026年3月末時点会員数：2,070社)と、包括的なパートナーシップ協定を締結しています。

農業法人の設備投資や経営の効率化、農畜産物の付加価値向上など、協会の会員が抱える課題に円滑に取り組めるようＪＡバンクの持つネットワークを活用し、幅広く支援します。

【セミナー等の開催】

6次産業化・輸出・ファンド等に関するセミナーや、農業経営に関するセミナー・講演会を全国各地で開催しています。

4 災害等の被害を受けた方への支援

ＪＡバンクでは、全国各地の災害等の被害を受けた方を支援するため、対策窓口設置のほか、災害対策資金・特別対策資金の対応等を実施しています。これからの復興の取組みに対して十全な支援を継続しつつ、被災地における担い手の育成や大規模化等の新たな取組みへの後押しにも重点を置きながら、今後とも農林水産業と地域の復興を多面的に支援していきます。

【2025年度　災害関連資金（ＪＡプロパー分）】

単位：百万円

災害種別	件数	新規実行額
新型コロナウイルス感染症	302	913
資材高騰・販売価格低迷	3,838	100,656
台風・豪雨等被害	1,435	6,612
その他	2,604	4,696
合　計	8,179	112,877

5 経営不振農家の経営改善支援

ＪＡバンクでは、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【2025年度　農業者の経営改善支援取組実績】

単位：件、％

区分		期初経営改善支援取組先 A	Aのうち 再生計画を策定した先 a	Aのうち期末に 債務者区分が ランクアップした先 b	Aのうち期末に 債務者区分が 変化しなかった先 c	事業計画策定率 a/A	ランクアップ率 b/A
正常先①		1,671	361	0	1,328	21.6%	0.0%
要注意先	うちその他要注意先②	1,469	471	222	1,094	32.1%	15.1%
	うち要管理先③	105	23	21	67	21.9%	20.0%
破綻懸念先④		618	274	53	470	44.3%	8.6%
実質破綻先⑤		589	121	25	474	20.5%	4.2%
破綻先⑥		27	3	0	22	11.1%	0.0%
合　計		4,479	1,253	321	3,455	28.0%	7.2%

（注１）経営改善支援取組先は、ＪＡ・信連・農林中金が再生計画の策定など、経営改善支援に取り組んだ先として指定したものをいいます。
　　ランクアップ先とは、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先をいいます。債務者区分不変先とは、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先をいいます。
（注2）各県域からの報告を集計しており、一部未集計のＪＡが含まれます。

6 事業性評価を通じた農業者の経営課題の把握・課題解決ソリューションの提供

ＪＡバンクでは、農業者との対話を通して、業界環境等を踏まえつつ、強み・弱みなどの分析をお手伝いし、経営課題に対する幅広いソリューションを提供しています。

系統ならではのソリューション(改善策)のご提案と実行支援を通じて、経営のさらなる成長・安定の実現をサポートしていきます。

経営課題を可視化し、改善策の提案を行います

目指すべき姿、経営ビジョン	外部環境の脅威・機会	内部環境の強み・弱み	解決すべき課題の特定・優先順位付け

事業実態把握、基礎的財務分析・経営者ヒアリング・品目別収支分析を通じて可視化

担い手コンサルによる農業者へのソリューション提供

実施県域

ＪＡバンク　岡山

守る農業から、つなぐ農業へ
― 地域に根ざした農業法人の歩みと挑戦 ―

JAバンク 岡山

JA岡山

JAバンク岡山では「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指し、
新規就農希望者からベテラン農業者まで幅広い支援を行っています。JA を利用した生産者の「生の声」をお届けします。

担い手コンサル・農業融資

突然のバトンを受け取り、手探りで走り出した農業経営

担い手コンサルティングを契機とした経営の見直し・作業の効率化

農地を守り、挑戦する人を育て、農業を未来につなぐ

突然の世代交代、試行錯誤の営農

当社は、2008年に先代である父が「農業を志す若者に夢を持ってほしい」との思いのもと「（株）夢ファーム」を設立。設立当初は、経営の中心を担うのは父であり、代表は県内の農業大学校に通いながら、繁忙期に農作業を手伝う程度にとどまっていた。

しかし、父の病気をきっかけに、事態は急変。代表は経営を引き継ぐことを決意した。

突然訪れた代替わり。農作業についてはこれまでの経験から対応できたものの、経理や資金管理、取引先との関係把握は未経験の領域で、手探りで進める状況が続いた。

担い手コンサルを契機とした経営の見直し

かかる状況下で、経営の方向性を見直すきっかけとなったのが、JAによる担い手コンサルティング。そのうち、財務分析等の経営診断を通じて、客観的に経営状況を把握できたことで、父・祖父がこれまで築き上げてきた安定した基盤があること を実感。

以後、「守るための投資」は必要だと考えるようになり、田植え機やコンバイン、直播用作業機をJA資金を活用しながら導入を進めた。

これらの設備投資により、作業効率が格段に向上。現在、弟と２名体制で、少人数でも持続可能な営農を目指している。

次世代の地域農業を守るために

現在の生産規模は約70ha（米60ha、麦10ha）。今ある農地を守ることを基本方針としつつ、地区内で農地の引き受け要請があれば、前向きに検討し、地域農業を保持していきたいと考えている。

（写真左：雄太様、写真右：潤様（弟））

また、母校からの依頼を受け、将来農業法人で働きたいという意志のある高校生の研修の受け入れも検討しており、次世代へ農業をつなぐ役割も果たしていきたいと考えている。

今後も、地域・JAとともに歩みながら、持続可能な農業を次の世代へつないでいく、それが、これまでの経験を通して代表が描いた「守る農業から、つなぐ農業へ」の挑戦である。

(株)夢ファーム 代表取締役

奥山　雄太 さま

事業内容

・西大寺地区で米麦約70haを営む法人
・自家栽培米を原料とした酒類製造も委託
・問い合わせ先：
(TEL)086-943-4177
(Mail)yumefarm@hotmail.com

Field Notes

当社は、雄太様が代表に就任された直後から担当させていただいており、非常に印象深い担い手様です。当時、日々奮闘される姿を目の当たりにし、「少しでも力になれれば」との思いから、担い手コンサルをはじめ、資金面を中心に支援させていただきました。現在は担当を外れているものの、定期的な訪問を通じて、当時と変わらぬ関係性を築かせていただいていることを大変ありがたく感じています。

（JA岡山渉外担当：服部職員）

私は渉外担当になって間もない頃に、当社を担当させていただくことになりました。自分自身も業務に慣れることで必死だったなか、次世代を担う同世代の農業法人の代表様が懸命に事業へ取り組まれている姿は、私にとってとても刺激になり、今でも強く印象に残っています。

今後も、何かお困りごとがあった際に、「第一にJAへご相談いただける存在」を目指し、日々精進していきたいと思います。

（JA岡山渉外担当：上田職員）

経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供

1 資本供与の取組み（ファンドの活用）

ＪＡバンクでは、農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に投資し、その成長を支援しています。

【投資累計実績】　　単位：件、百万円

ファンド名	2025年度末累計	
	件数	残高
アグリビジネス投資育成㈱ プロパーファンド	198	7,995
アグリシードファンド	381	2,812
担い手経営体応援ファンド	36	1,018
復興ファンド	87	1,854
SFVCファンド	65	4,522
合　計	767	18,202

【アグリビジネス投資育成㈱】農業法人投資育成制度にかかる業務を行うため、ＪＡグループと日本政策金融公庫の出資により設立された法人です。

【アグリシードファンド】農業生産法人を含む農業法人へ資本を供与する枠組みとして創設されました。資本過小ながら技術力のある農業法人へ出資し、地域農業の担い手を育成することを目的としています。

【担い手経営体応援ファンド】農業法人の規模拡大ニーズの高まりを受け、既存のアグリシードファンド等では対応できない大型の投資案件に対して対応しているファンドです。

【復興ファンド】災害被災された農林水産業法人等を支援することを目的に創設されたファンドです。

【SFVCファンド】農林漁業等の持続可能な発展に貢献することを目的として創設された、食農バリューチェーン関連への成長資金に対応するファンドです。（SFVC：Sustainable Food Value Chain）

注：四捨五入の関係で内訳と合計が一致しておりません。

資本供与の取組み（ファンド活用）

実施主体

ＪＡ津軽みらい、
アグリビジネス投資育成㈱
（アグリ社）、
農林中央金庫 青森支店

りんご生産法人へのアグリ社による出資支援

JAバンク 青森

JA津軽みらい

農林中央金庫青森支店では、りんごの高密植栽培への改植を進める農業法人に対し、取引JAと連携し、アグリ社による出資を活用した支援を行いました。**高密植栽培は、初期投資が大きく、植栽から本格的な収益化までに3～4年を要することから、最長10年間保有できる出資の特性を活かし、本格的な収益化までの資金負担の軽減と経営の安定化を後押ししました。**

法 人 名	**もりやま園㈱（青森県弘前市）**
業　　種	りんご、シードル
出 資 額	10百万円（アグリシード）

写真中央：もりやま園㈱　森山社長
写真右側：JA津軽みらい　一戸さん
写真左側：農林中金青森支店　工藤さん

当社シードル＆ソーダラインナップ（全10種類）

出資先の特徴・将来性

①スマート農業への取り組み

- ✓ スマート農業の前向きな導入を積極的に進めている。
- ✓ 果樹１本１本に、品種・配置・二次元コードを示すツリータグを設置し、作業者がスマホで読み取ることで、**作業を可視化できるシステム（Agrion果樹）**を、システム会社と組んで自社開発。

Agrion果樹

②摘果りんごを活用したシードル生産

- ✓ 主力商品の「テキカカシードル」、「テキカカアップルソーダ」の**「テキカカ」とは摘果作業で摘み取られる未成熟な果実**のこと。未熟な実は外敵や病気から身を守るために、苦みや渋み、酸味の元であるポリフェノールを豊富に蓄えている。
- ✓ 「テキカカシードル」はジャパンシードルアワード2019で大賞受賞。

摘果りんごとシードル

③事業拡大意欲が強い

- ✓ もりやま園㈱ではイタリア・南チロル地方を現地視察し、従来の丸葉栽培から**高密植栽培への切替えを進め、収量増加を図っていく**計画。
- ✓ 本栽培方式のメリットとして、**早期多収による投資回収の迅速化**が挙げられる。

高密植栽培園地

当社への支援

①出資ニーズに応えたアグリ社による出資対応

- ✓ 法人協会イベントにて**自己資本増強のための出資ニーズを捕捉してから、JAと連携し迅速に出資対応。**

②近代化資金を活用した低利な融資支援

- ✓ **アグリ社出資を契機に高密植栽培への改植資金7百万円の近代化資金申込**に至った。今後も引き続きJAによる融資支援を行っていく。

③高密植栽培にかかるJAの資材販売提案

- ✓ 高密植栽培に必要となるトレリス等の資材について、**JA全農あおもりと連携し、系統資材の提案を実施。**

アグリ社の声

- ✓ 協会イベントでの初顔合わせの翌週には初面談を実施するという異例のスピード感で案件化しました。その背景には、JAが日頃の接点を通じて財務面の課題を把握し、解決策の一つとしてアグリ社をご紹介いただいたことがあります。
- ✓ JAと農林中金による日常的な事業支援の延長線上に、今回の出資実現があったものと考えております。

2 負債整理資金による経営支援

ＪＡバンクでは、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため負債整理資金を取り扱っています。

【2025年度　負債整理資金貸出実績】

単位：件、百万円

資金名	2025年度		2026年3月末残高
	実行件数	実行金額	
農業経営負担軽減資金（注1）	23	331	5,858
畜産特別資金（注２）	162	3,702	24,427
その他（注3）	893	8,930	30,791
合　計	1,078	12,963	61,076

（注1）農業経営負担軽減資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、ＪＡなどの融資機関において取り扱っています。
（注2）畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期･低利の借換資金であり、ＪＡなどの融資機関において取り扱っています。
（注3）その他は、都道府県独自の制度資金や、制度資金以外のプロパー資金（要綱資金、独自資金）による借換え資金などが該当します。

3 動産担保融資の活用

ＪＡバンクでは、農畜産物や機械設備、事業用車両などの様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っています。

【2025年度　動産担保融資活用実績】

単位：件、百万円

動産の種類	件数	残高
	2025年度	2026年3月末
農畜産物	1,915	78,597
機械設備	287	4,854
その他	11	75
合　計	2,213	83,526

注：四捨五入の関係で内訳と合計が一致しておりません。

Ⅳ

農山漁村等地域の情報集積を活用した
持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

1 食・農への理解促進

ＪＡバンクでは、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、ＪＡバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちのくらし」の配布や農業体験学習の受け入れなどに取り組んでいます。

教材本「農業とわたしたちのくらし」は、ＪＡバンクを通じて、2008年度より全国の小学校へ配布が開始され、これまでに約2,000万冊が学校の授業等において活用されています。2025年度については、全国の小学校約２万校へ約122万冊が配布されました。また、本取組みは各種新聞や食料・農業・農村白書のコラム等にて取り上げられております。

▲教材本「農業とわたしたちのくらし」

2 地域活性化への取組み

ＪＡバンクでは、地域における農業者との結びつきを強化し、地域を活性化するための取組みを行いました。

【行政・地域企業等との連携】

行政や地域の食農関連企業・関連団体等との連携を進め、地域での新たなビジネスの構想・実践を通じて地域活性化に貢献しているほか、近年では金融教育にも注力しています。

規格外野菜の有効活用による地域活性化の取組み

実施県域

ＪＡバンク　長崎

「規格外野菜を活用した 1day イベント@バイオパーク」を開催

JAバンク 長崎

バイオパーク株式会社、九州西濃運輸株式会社、ＪＡ島原雲仙、農林中央金庫長崎支店は、食品ロス削減やサステナビリティに対する理解促進を目的に、県内動物園の長崎バイオパークにて「もぐもぐＺＯＯ　～わけありニンジンパーティー～」と題した規格外野菜の有効活用に関する１日限定イベントを開催しました。

イベントの様子

規格外ニンジンの**つかみ取り**＆有効活用にかかる**取組みPR**

規格外ニンジンを使ったカピパラの**ニンジン風呂**＆**えさやり体験**

農林中央金庫　長崎支店より

- ✓ イベントでは、各関係者にご協力いただいたブース出展だけでなく、パネルを作成し来園者に規格外野菜について紹介を行いました。
- ✓ イベントでは来園者にアンケートも実施したのですが、アンケート結果から規格外野菜を知らない方が約40%いることがわかり、まだまだ認知度が低いことがわかりました。
- ✓ 今回の規格外野菜の有効活用の取組みを知ってもらうきっかけとして、動物へのエサやり体験やニンジンつかみ取りなどを実施しましたが、来園者からも大変好評でしたし、同様の取組みが他でもできそうです。
- ✓ 課題としては、イベント内での企画をさらに増やすことでしょうか。
- ✓ 関係者と連携することでスピーディーに準備を進められましたが、一部諦めざるをえない企画もありました。
- ✓ 今回のイベントで開催に関わるノウハウは蓄積できたので、次回以降はこうした企画も織り交ぜながら、生産者の所得向上に向けて、よりパワーアップしていきたいです。